

「クーラックス」施工いろいろ4 一床の巻一

(穴なし仕様)

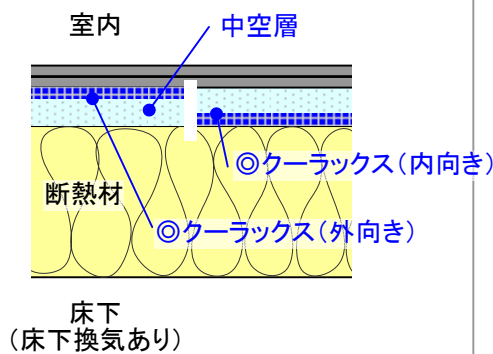
SyanetsuShiryou104/sekou_yuka20080915

遮熱シート「クーラックス」を、床面(床下換気あり)に使う場合の参考パターンと留意点を紹介します。

床面は、寒さを感じやすい下半身が触れること、人に対する輻射面積が大きいこと、冬の低温で結露しやすいことなどから、床まわりの断熱性を確保したいところです。ところが、断熱材を厚くしにくい建築部位のため、十分な断熱を施せないと思います。そこで、断熱シートでもあるクーラックスの出番を検討してはいかがでしょうか。冬の状態(熱流下向き)では、最高の断熱効果でクーラックスが働きます。

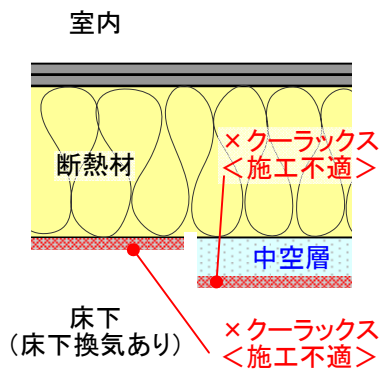
● 参考パターン … 防露については検討条件により評価が異なるので、目安としてご覧ください。

【1】防湿気密シートに代えて張る … ◎：安心度高い・お勧めパターン



- ・遮熱：◎ (断熱材の外側に張る方が高い遮熱性)
- ・断熱：◎ (冬の断熱性アップに最適な位置)
クーラックスの断熱性能：グラスウール(16K)
およそ45mm相当厚さ
- ・防露：◎ (冬型結露の防止に安心度高い)
- ・気密：◎ (気密性能もアップ)
- ・ホコリ避け／施工時：◎ (中空層の上側にある方がよい)
- ・ " / 施工後：◎

【2】断熱材の下に張る … ×：施工不適(結露しやすいため)



- ・防露：× (穴なしシートは対応不可、冬に結露しやすいため)

補足：室内側に防湿フィルムを張ると防露性能は向上しますが、地面から上がる湿気がこもる可能性があるので、検討対象外としました。

[共通の留意点]

- ・床下換気口を設ける床下空間は、地盤面を十分に防湿してください。
- ・床暖房または掘コタツまわりの断熱部分は運転停止後に結露しやすいので要注意です。たとえば、湿気を比較的透しにくいプラスチック発泡系断熱材を用いると暖房時に呼び寄せる湿気を減らし、結露しにくい構成になります。